



2017
謹賀新年



人工知能の挑戦が始まった

代表取締役 高 允 男

去る3月にGoogle Deepmindが開発した囲碁プログラムのアルファ碁と、韓国のトッププロである李セドル9段の対局が世界的に話題になった。結果は、大方の予想を覆し、アルファ碁の勝利となったことはご存じの通り。手数が膨大な数に上る囲碁においては、人間を超えるには少なくともあと10年以上かかると言われていたが、人工知能が思ったよりも急速に成長していることに人々は驚きと共に、多少の不安を感じたはずだ。

人工知能のめざましい発展が注目を集める中、9月には、Googleニューラル機械翻訳が発表された。アルファ碁と同じくディープラーニングの技術を応用して、より自然な機械翻訳が可能になったという。

製造業の分野においては、もはや製造工程が人間の手を離

れ、機械化になって久しいが、今後翻訳の分野においても人間の仕事が機械に取って代わっていくのだろうか。

答えは「否」である。

一定の形があるモノと違って、言葉とはそもそも不正確なものである。同じ言葉でも、使われる場所や時間などによって意味が変わってしまう。翻訳においても、その文章そのものだけではなく、前後の文脈や用途、対象によって翻訳文が変わる。そういった包括的な判断力が求められるのである。

私が思うに、言葉とは人間が人間たる最後の砦である。人間味があるからこそ、言葉によって喜び、怒り、泣き、笑うのだ。

一人の人間として人間らしい仕事ができることを喜びに感じ、今後もこの仕事を続けていきたいと思う。

翻訳とDTPの関係

営業企画部 金山 麻美

つい先日、観光庁の発表で、2016年の年間訪日外国人観光客が過去最多の2000万人超となった、とありました（2016年10月現在）。確かにここ数年、街中ではますます外国人観光客が見受けられるようになり、心斎橋や梅田などの繁華街へ行くところは本当に日本かと疑うほどです。それに伴い、観光地や街中のあちこちで、外国語表記のものをいっそう頻繁に目にするようになりました。韓国語印刷から始まり、現在ではカタログ・パンフレットからマニュアルまで、さまざまなジャンルの翻訳・DTP・WEB制作のお仕事に携わらせていただいているわが社としては、こういったニュースにはとても敏感になります。私自身、このお仕事を始めてから、外国語表記のものを見つけると、足を止めて見るようになりました。

さて、突然ですが、みなさんは街中でどんな言語を目にしますか？ おそらく、ほとんどの方が英語・中国語・韓国語とおっしゃるかと思います。現に、弊社にご依頼いただくおもな言語はその3か国語です。KBSでは多言語を取り扱っておりますが、特にこの3か国語に関しては、イラストレーターなどの編集ソフトの普及が高まったということもあり、翻訳のみ弊社にご依頼いただき、その後のDTP作業は自社で行われるというケースも増えてまいりました。しかし、ここでご注意いただ

きたいのは、各言語それぞれのルールがあり、翻訳のみならずDTP作業を行う上でもその言語に精通している必要があるということです。例えば、中国語の句読点、韓国語の改行・スペースなど、細かなことではありますが各言語正式なルールがあります。お客様からのご依頼の中で、すでに翻訳・DTPが完了しているもので校正だけをしてほしいというご依頼があります。翻訳に関しては、訳者によって言い回しや訳し方が異なるのは問題ないのですが、句読点や改行の位置が間違っていることが多々あります。それらが間違っていたとしても決して理解できないわけではないので、あまり気になさらない方もおられますが、その言葉や情報に信頼性と信憑性を持たせるためにも、各言語のルールに則った正しい表記というものはとても重要です。弊社では、翻訳は基本的にネイティブが行い、DTPに関しては長年の経験を持つ制作部によるデータ作成と弊社に籍あるいは登録のネイティブによる校正が入るため、迅速な対応かつ品質の高いものを提供させていただくと自負しております。

2020年の東京オリンピックに向けて、これからますます国際化がすすむことが予測されます。実際ここ数年、上記の主要3か国語以外にもタイ語・インドネシア語・ベトナム語など東南アジアの言語の依頼も増えてきております。

特にタイ語に関しては、観光パンフレットなど皆さんに馴染みのあるものの翻訳・DTP依頼が多いので、タイ語を見かけたことがあるという方もいらっしゃるかと思います。これまで培ってきた経験と数多くのネットワークを駆使して、これまで以上に多言語・多方面のお仕事に対応し、今後ともお客様によりよいサービスを提供していきたいと考えております。

外国人観光客増加にともなう翻訳の仕事

翻訳部 呂 咏 鴻

2014年の『ナルゲ』第47号で多言語サイン（看板・案内図等）が紹介されました。今回はレールパスの多言語看板・パンフレット・チラシなどの仕事について紹介します。

近年、訪日外国人観光客が急増し、最新データによると、訪日外国人観光客数は2016年1～10月の累計が前年比23.3%増となる2,011万人台となり前年度の年間1,973万人台を超えました。大阪に訪れた外国人観光客数は2016年1～9月前年比35%増となる711万人台に達し、前年度の年間716万人台とほぼ並びました。国・地域別では、中国が最多で2016年1～9月の累計で

初めて500万人を超えた国となり、次いで韓国、台湾です。

先日、菅義偉官房長官が2016年の訪日外国人観光客数について2400万人を超えるだろうとの見通しを発表しました。日本政府は訪日外国人観光客の目標人数を2020年に4千万人、2030年には6千万人と倍増させることを決めました。

こうした現状のおかげで、弊社は鉄道系をはじめとする外国人観光客向けの多言語看板・パンフレットやマップの仕事を多く承ることとなりました。写真に示したように、現在、関西空港のJR自動券売機の上にJR-WEST RAIL PASSの多言語（英語・韓国語・中国語簡体字・中国語繁体字）看板が掲示されています。この看板を含めJR-WEST RAIL PASSの多言語パンフレット及び特典施設一覧チラシも、翻訳・DTPをしているのです。関空に行った際にこれを見たら、私は、やりがいと社会的存在感を実感します。

外国人観光客の増加と旅行動向の変化に伴い、JR-WEST RAIL PASSは毎年更新・改訂をしております。改訂版を作る際は、前回版と言葉の統一をすることに気を付けています。翻訳者のニュアンス・前後の文脈によって言い方の違いがよくありますが、ケイビーエスでは、できるだけ表現の統一に取り組んでいます。

外国人観光客の増加や中国人へのビザ緩和により、日本への個人旅行も増えています。外国人観光客が日本でもっと旅行をしやすくなるように、今後は多くの鉄道会社が、観光客向けの1日から数日間の乗り放題のフリーチケット（Pass）を登場させるかもしれません。

海外の人々が来日して、言葉がわからなくても交通機関をスムーズに利用して移動できるよう、貢献し続けていきたいと思っています。





各位讀者們知道什麼是「日本百名城」嗎？

日本百名城是由分布在日本全國的城郭及城跡中，以觀光知名度、文化財產及歷史重要性、復原正確性為基準，由歷史及建築專家所精選出的城郭名錄。「日本百名城」的每個點，都設有專門設計的印章，可以專用的印章冊蒐集。

3年前開始，我時常經手觀光簡介的翻譯，了解到觀光簡介的翻譯，並不僅僅是文字上的翻譯，還需要兼備由幾行的文章中，讀出城鄉特色及魅力的感性。若要培養出這樣的感性，唯一的方法是自已自身前往各種城鄉，因此便開始了我的日本百名城之旅。

台灣具有荷蘭、鄭成功時代、清朝、日本殖民地的歷史背景，築有多數深具外來文化影響的城郭，但「完全台灣味」的建築其實並不多。舉例來說，台灣現存的最古老建築——「紅毛城」便是典型的二層樓英國殖民式建築，且內部的展示品也幾乎都是西方樣式。台灣的城郭並非以如何展現台灣味道為主題，而是看著建築，即能隨之想像出西班牙人與荷蘭人登陸的大航海時代，這才是它的樂趣所在。

相對的，日本的城郭則讓人深深感受到日本人特有的感性與文化。日本庭園雖為人工建造，卻使人感到天然，隨著四季變化改變它的色彩，滿足來訪者的目光。幾百年的木造建築，構造複雜且精緻，讓人不得不佩服當時工匠與職人們的巧手。城郭巧妙運用當地地形，在周圍下了許多功夫完成各種防衛工事，當時為政者的堅持與智慧，讓身為現代人的我也為之驚訝。

和最近流行說的「歷女（喜歡歷史的女性）」有些不同，對我來說，旅行同時所接觸到各城鄉不同的文化、風情、甚至方言，穿梭過去現代的整套行程更引人入勝。造訪首里城時，我得到了一個新發現。一般連日本人也很難懂的沖繩方言，好像有許多單字都與中文十分相像。舉例來說，「嬰兒」在沖繩唸做「bobo」的音，酷似中文的「寶寶」（baobao）、沖繩人說「歐巴醬」為「amma」，甚至與台語中「阿嬤」相同，還有沖繩名產的「砂糖翁」等等，發音幾乎都與中文、台語相近或相同。雖說屬於不同國家，但亞洲圈自古以來即沒有停止交流，因此方言大概早已悄悄地走向國際化了吧。

由於持有日本名城巡禮這個目的，才能造訪到平時很難列入旅行名單的城鎮，而我也希望於旅行中所培養的感受性可與翻譯觀光資訊的工作相得益彰。

翻譯與日本名城巡禮

中国語翻訳者 謝欣茹

翻訳と日本名城巡り

皆様、日本百名城というものをご存知でしょうか。

日本百名城とは、日本全国にたくさん点在している城や城跡の中から、観光地としての知名度、文化財や歴史重要性、復元正確性等を基準にし、歴史や建築の専門家が選んだお城のリストです。日本百名城にはそれぞれにデザインされたスタンプが設置されており、専用のスタンプ帳に押し集めることができます。

私は3年前から観光パンフレットの翻訳によく携わることにになり、観光パンフレットは単なる翻訳だけではなく、わずか数行の文章から地方の特色や魅力を読み取る感性も同じく重要で、それを育むには、実際にいろいろなところに自分で訪れるしかないと感じたので、日本百名城及び地方巡りを始めました。

台湾はかつてオランダ、鄭成功時代、清朝そして日本の植民地時代の歴史背景から、外来文化を取り入れた城郭が多数築かれていましたが、「台湾風/台湾なりの」という特色は意外とそれほど多くはありません。台湾に現存する最古の建築である「紅毛城」は典型的な2階建てのイギリス植民地様式で建築されたもので、展示品もほとんど洋風スタイルです。台湾のお城は「台湾式」というより、大航海時代にスペイン人やオランダ人の上陸した時代を想像させてくれます。

それに対して、日本のお城は日本人特有の感性や文化を強く感じます。日本式庭園は、人工のものであるにも関わらず、自然を感じさせ、四季の変化とともに色彩を変え、来訪者の目を楽しめています。何百年前の木造建物は、複雑で精緻な構造で組み立てられており、当時の大工や職人達の巧みな手腕に感嘆します。城郭は、地形を活用しながら、敵からの侵入を防ぐ、いろいろな工夫が凝らされ、築城した為政者のこだわりや知恵に驚かされます。

最近よく言われている「歴女」とは少し違って、私は町それぞれの文化や風情、言葉に触れることを楽しみながらお城を巡っています。首里城を訪れるための沖縄旅行で、「日本人でも分からない」とされる沖縄方言は、実は中国や台湾の言葉に似ている単語が多いと発見しました。例えば、あかちゃんは沖縄では「ぼーぼー」と言いますが、中国語では「宝宝（バオバオ）」とかなり発音が近く、おばあちゃんの「アンマー」は台湾語とまったく同じ発音で、名産の「サターアンダーギー」の「サター」も砂糖を意味する言葉で、中国語の「砂糖（サタン）」に似ています。異なる国とは言え、アジア圏で古来から交流を重ねてきたため、実は方言ではひそやかにグローバル化が始まっていたのかもしれない。

このようにお城巡りという目的を持って、ふだんなかなか「じゃあ行こう！」という気にならないところを訪れることができ、そして旅で育んだ感受性を観光などの翻訳の仕事に活かせばいいと思います。

ある日、会社のベンジャミンにお水を上げていたら葉っぱの間に小さな緑の丸い物体を見つけました。

「なんだこれ? つぼみ?」と思いましたが、そもそもベンジャミンに花が咲くのでしょうか?

専務と「何でしょうね?」と話していましたが今日、たまたまネットで見つけた記事に書いてありました。

これは、実であり花でもあるそうです。ベンジャミンはいちじくの仲間だそうです、いちじくは「無花果」と書きます。

いちじくは花が無く、果(実)だけできると誤解されていますが、実はあの果(実)の中に花があるそうです。

そう、このベンジャミンの果(実)も中に花があるんですね。

でも、残念ながら食べられないんですよ(笑)



社員BLOG

2016

<http://blog.kbsjapan.com/>

日頃感じたことを書き綴っていますので、どうぞお気軽にアクセスしてみてください。今号でもいくつかをご紹介します。

4/15

Webにおける ルビ(ふりがな)の表現

横澤 寅男

私は働きだすまでふりがなのことを「ルビ」と言うことを知りませんでした。なぜ「ルビ」と言うのか、深く考えず「ふ〜ん、そうなんだ」くらいにしか思っていませんでした。

語源由来辞典によると—ルビとは、振り仮名用の活字で、主に4~6ポイントの小活字。振り仮名だけをさす場合もある。**【ルビの語源・由来】**

5号活字の振り仮名に用いた7号活字の大きさが、イギリスで「ruby」と呼ばれる欧文活字と同じ大きさだったため、仮名用の活字を「ルビ」と呼ぶようになり、振り仮名のことも「ルビ」と呼ぶようになった。

「ruby」は宝石のルビーのことで、欧米では活字の大きさを宝石名で呼び、5ポイントを「pearl(真珠(しんじゆ))」、5.5ポイントを「agate(瑪瑙(めのう))」といった、……とある。さて、そんな「ルビ」をホームページで表現するときはどうするのか…? <ruby>タグはIE5の時代から既にあったのだけれど、ブラウザによって見え方が違ってしまったり、うまく表現できなかったため、私はほとんど使用していませんでした。CSSが一般的になる前は画像で作ったりして、それはそれは面倒な作業でした。CSSで表現する場合でも<div>タグを駆使して擬似的に表現していて、各ブラウザで同じように見せるのには、とても苦労していました。

今はブラウザの進化とともにhtml5 CSS3に対応しており、ルビの表現を簡単に、しかもきれいに表示させることができるようになってきました。

11/1

テントが新しくなりました



5/11

新緑の明石

李 秀 泰

ゴールデンウィークの5月1日、大阪駅からJR新快速で37分の明石に行ってきました。須磨あたりから海が見えはじめ、舞子に近づくとその壮大な明石海峡大橋が見えるではありませんか。淡路島とつながる世界最長の吊り橋は見事としか言いようがありません。

明石駅前には立派な明石公園があり、まぶしいほどの新緑が出迎えてくれました。実はこの日、以前から足をのぼしてみたかった明石球場で兵庫県春季大会準々決勝の2試合が組まれていたのです。甲子園センバツで8強入りした明石商業、大好きな報徳が勝ち、夏へのシード権を手に入れました。さすが高校野球ファンが根強い土地柄とあって大入りで、私もナイスゲームに立ち会いとても満足しました。

公園をゆっくり散歩して見晴らしのいい高台へ出ました。海にむかって左には明石海峡大橋、正面には淡路島が見渡せました。明石城は珍しく天守閣が建てられなかった城跡らしく、石垣の上の櫓(やぐら)が残っていました。また、剣豪宮本武蔵も明石の町割り(今でいう都市計画)に関わったそうです。

ツツジが満開のお寺や神社を通り抜けると、「子午線標準柱」の大きな柱が…、そう、ここが東経135度線、日本の標準時間となるんですね。日も傾むいてきて、残念ながら天文科学館は次になりました。

駅の方へ戻りつつ、のども乾いてきます。あとはこれしかありません。明石といえばタコ、お魚で有名です。とても新鮮、ばりばりした魚をビールといただき、満喫の明石をあとにしました。



6/8

2016年 春のハイキング

金山 麻美

社員の皆さんと奈良の生駒にてハイキング&バーベキューをしてきました。まず、近鉄奈良線生駒駅に9:30amに集合しまして、そこから徒歩組とケーブルカー組に分かれます。

というのも、生駒駅から宝山寺までのハイキングコースは途中から石段になってるので、体力的にきつい人は生駒駅前から出ているケーブルカーで宝山寺へ。

宝山寺からお寺に行くまで、またまた石段が続いているためこちらでもお寺見物組と待機組の二手に分かれることに。

お寺見物のあと待機組とも合流し、ゴールの生駒山麓公園に向けてハイキングです。

宝山寺までわりと急な石段を登ってきたおかげか、ここからのハイキングコースは比較的平坦で、山道を散歩しているという印象でした。

ところどころにお花や野イチゴなどがあり、自然のマイナスイオンを沢山吸ってそして宝山寺からハイキングすること約1時間、生駒山麓公園に到着。途中参加組の人とも無事合流し、バーベキュー開始!

バーベキューのあとは、お風呂組とアスレチック組に分かれて行動。

公園内には、ふれあいセンターやアスレチックなど、バーベキュー以外にも楽しめるアトラクションがあり、老若男女楽しめる場所だと思います。

ほどよく汗もかき、おいしいものを食べた後に入るお風呂はとても気持ちよかったです。

帰りはバスに乗って生駒駅まで下山。16:00頃に到着し解散。

解散後は、初めて生駒駅に降り立ったということもあり、翻訳部の柳さんと駅周辺のお土産屋さんをぶらり。生駒は茶筌が有名とのことで、少し変わった「マドラ兼茶筌」というものを買ってみました。

地元のお豆腐屋さんが作ったおとうふも購入、濃厚でとてもおいしかったです。





大歩危峡(おおほけきょう)にて

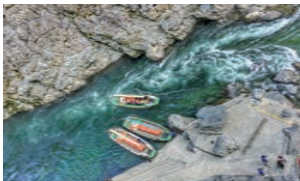


日本3奇橋のかずら橋



樹齡三千年を超える杉の大杉

KBSでは四国観光関連の仕事をよくさせて頂いていますが、2016年11月、四国の徳島・高知へ社員旅行に行ってきました。テーマは「四国秘境めぐり2日間」。延々と続く山並み、渓谷の間を流れる澄み切った川……、まさに一人では行けない秘境を満喫してきました。



大歩危峡の遊覧船

オボケキョ

처음 관광지는 시코쿠 한가운데에 자리한 오보케키ョ의 유람선. 박력 넘치는 바위들, 강에서 헤엄치는 새들을 바라보며, 우리는 상쾌한 바람을 맞으며 이 시간을 즐깁니다. 자연에 매료되어 가이드님의 설명도 귀에 들어 오지 않습니다.

大歩危峡(おおほけきょう)

最初の観光は四国のまんなかにある大歩危峡(おおほけきょう)の遊覧船. 迫力溢れる岩々、川を泳ぐ鳥たちを見ながら、私たちはさわやかな風を感じていました。自然に魅了され、ガイドさんの説明も耳には入って来ませんでした。



大歩危峡の川下りを楽しみながら撮影

가즈라바시 다리

일본 3 기이한 다리 중의 하나라는 가즈라바시 덩쿨다리입니다. 마치 그림과 같은 다리이지요...발을 디딜 때마다 삐걱 삐걱하는 소리에 심장이 멈출 것 같은 공포의 다리입니다. 심장 약하신 분들에게는 추천할 수 없는 다리입니다. 오늘밤 우리가 묵을 호텔은 도사로알호텔. 우연일까요? 한신 타이거즈 야구 선수들과 함께 하는 행운(?)도 주어졌습니다.



스릴리滿点のかずら橋

かずら橋(かずらばし)

日本3奇橋の一つと言われる祖谷(いや)のかずら橋.まるで絵のような吊り橋ですね。足を踏み出すたびに、ギーギーと音を立てていて心臓が止まりそうになるくらいの恐怖を感じさせる橋ですので、心臓の弱い方にはとてもおすすめ出来ない橋です。この日泊まったのは、土佐ロイヤルホテル。偶然にも、阪神タイガースの選手達と一緒にという幸運(?)にもめぐまれました。

진카바시 다리

둘째 날은 영화나 드라마에서만 보던 침하대교인 진카바시 다리. 좁고 긴 다리에는 보시다시피 난간도 없습니다. 매일 이곳을 생활 속에서 사용하는 다리 건너편에 사는 사람들은 정말 대단합니다.



欄干のない沈下橋

沈下橋(ちんかばし)

2日目は映画やドラマなどでしか見る事ができなかった沈下橋へ。狭くて長いこの橋には欄干がないのです。毎日この橋を生活の中で往来している人々はすごいですよ。

니요도가와 강에서 나카쓰 계곡으로

시코쿠의 산줄기를 따라 천천히 흐르는 니요도가와 강. 푸른 빛을 띤 맑고 아름다운 강으로 일본에서 수질이 가장 훌륭한 곳으로 알려져 있는 이곳은 니요도블루라는 별칭이 붙을 만큼 파랗게 빛 납니다. 우리들은 버스 안에서 니요도가와 강을 바라보면서 나카쓰 계곡으로 향했습니다. 눈 앞에 펼쳐지는 신비한 바위들과 투명하고 파란 물, 활력 넘치는 이 계곡에는 무언가가 있는 듯 합니다. 보이는 곳곳마다 자연의 아름다운 그 자체입니다. 우리의 마음을 감동시켜 주는 자연의 고마움을 배운 날입니다.



中津溪谷の「雨竜の滝」にて

仁淀川(によどがわ)から中津溪谷(なかつけいこく)へ

四国の山並みの間をゆったり流れる仁淀川(によどがわ).日本で水質が最も優れている川に選ばれた“仁淀ブルー”は、あまりにも幻想的で青く澄みわたっていました。そして私たちはバスの中から仁淀川を見渡しながら中津溪谷へ。目の前に広がる神秘的な岩々、青くて透明な川、生き生きとしたこの溪谷にはきっと何かがありそうです。至る所に自然の美しさがそのまま表れ、私たちの心を感動させてくれ、そして自然の有難さを学んだ日でした。

스기노 오스기 대왕삼나무

마지막 관광지는 수령 3천 년 이상으로 추정되는 거목 '스기노 오스기'. 두 그루의 큰 삼나무는 뿌리가 붙어 있는 부부 삼나무입니다. 이 곳은 시간과 공간을 초월한 신비감을 느끼게 합니다.

杉の大杉(すぎのおおすぎ)

観光の最後は、樹齡三千年以上といわれる“杉の大杉”.二本の大きな杉の木が根元で一つになっている夫婦杉です。私たちはここで時間と空間を超越したような神秘性を感じていました。

시코쿠를 뒤로 한 채 우리는 아와지시마를 종단하여 아카시해협대교를 건너 오사카로 돌아왔습니다. 여러분 수고하셨습니다.

このあと私たちは四国を後に、淡路島を縦断、明石海峡大橋を渡って大阪へと帰ってきました。みなさん、お疲れさまでした。



総務部 林 芳子

2016年7月11日から19日、9日間の北欧旅行では、行先も限られていて、持ち帰った観光案内・マップなどわずかだが、改めて見るとほとんどが多言語のものだ。いくつか紹介してみよう。

■ドロットニングホルム宮殿 パンフレット



スウェーデンの首都ストックホルムにある。ヨーロッパはほとんどがアルファベット表記なので、私などは見ただけでは多言語版とは気づかない。よくよく見ると、スウェーデン語、英語、ドイツ語、フィンランド語、ロシア語、フランス語、イタリア語、スペイン語、日本

語、中国語（簡体字）の10か国語表記だ。各国の国旗を上部に入れ何語か分かるようになっている。A4サイズを横長に2倍にした大きさでそれをジャバラ折りにしたシンプルなパンフレットだ。

■ノーベル博物館 パンフレット

世界中に知られたノーベル賞の博物館だ。手元に日本語のみのパンフレットがある。やはり、日の丸が表紙の左上に印刷されている。見学に行った時、ちょうど激しい雨に遭い、たくさんの観光客が中で足止めされた。日本人受賞者のコーナーは入り口近くにあった。いろいろな言語のものがあったも、わかる言葉だけを選んでしまう。

■フロム山岳鉄道 路線図観光マップ

今回のメインはフィヨルドクルーズだった。ノルウェー第2の都市ベルゲンは、フィヨルド観光への玄関口として人気を集めている。ベルゲンからフロムへは、ベルゲン鉄道でミュルダールまで行きフロム山岳鉄道に乗り換えて行く。

この山岳鉄道のパンフレットも多言語版だ。やはり国旗で何語か分かるようになっている。ノルウェー語、英、独、日、仏、西、伊、ロシア語の8言語だ。国旗で言語を識別するのはヨー



ロッパならではのアイデアのように思う。フロム鉄道の路線図で、各駅の紹介は各言語ごとに、ミュルダールフロ

ム間の駅の高さ、距離などを紹介している。中面はフロム鉄道の旅と題して、真ん中に鉄道路線地図を載せ、駅の位置などわかりやすく歴史などを紹介している。ここでどう見てもレイアウトからは9か国語ではないかと見ると、ロシア語は他言語より2倍スペースをとっている。確かにロシア語は1単語が英語などに比べ長い。

■ボルグンスターヴ教会——生き残る教会 パンフレット

フィヨルドクルーズの翌日、バスでサンヴィーカというところへ行く途中、ボルグンにある木造スターヴ教会を訪れた。世界遺産になっているという。



スターヴ教会

入口で若い女性が入場券を売っていて、小さなバッグからパンフレットを出して見せた。みると中国語だった。私は「Japanese」と言って直接バッグから日本語のパンフレットを取り出した。10か国語ぐらい色違いの用紙に刷られているようにみえた。



チケットを売っていた女性

ヨーロッパのきらびやかな装飾にあふれた教会とは程遠い、異様とも思える真っ黒な建物、鋭い槍の先のような屋根が幾層にも重なり、表現しがたい存在感がある。屋根も木製の瓦葺きで魚の鱗のようだが先が尖っている。全体がタールで塗り固められている。建物は非常に古びて、手入れもされていないようにみえない。中は暗闇で、目が慣れるとやっとほの暗い礼拝堂の内部の様子が見えた。フラッシュで一瞬、壁の絵が浮かび上がる。

ボルグン・スターヴ教会は、1180年に建てられた。このような木造教会は、そのころ多く建てられたが、現存するのは28のみだ。ボルグン教会が建てられた当時の姿を最もよくとどめているという。現在建物はノルウェー遺産保護協会の管轄となって、新教会は別に建てられ礼拝されている。

パンフレットは、ブルーの色上質で、A4、3つ折りスミ1色両面刷りで質素なものだ。写真はなく、外観図、建築構造図、聖堂見取図とともにその説明がなされている。それが興味深い。

「見ることができるもの」として、現存する建築物、入り口、装飾品、祭壇、洗礼盤、祭壇遙拝窓などを項目ごとにあげ、

「見ることができないもの」として、存在したであろう教会美術の失われた部分すべて——両側の祭壇にあったと思われる十字架と聖母マリアや他の聖人の彩色像。

主祭壇にはおそらく、聖書や聖オーラフ伝説の光景が描かれた祭壇幕があった。内陣の狭い敷居のオリジナル。ミサをラテン語で司る司祭と祭服。右側に男性、左側に女性の会衆。老人や病人は壁際のベンチに着席したと思われる。

「聴くことができないもの」として、司祭がラテン語でミサを司る声と会衆の応唱、歌声。人々をミサへ呼び集める鐘楼の鐘の音。礼拝の間に使われた小さな鐘の音。

「香の香りも嗅ぐことはできない」と記されていた。

質素な紙に刷られたそれが、思いがけず何かとても私の心に響くものだった。

■DFDS SEAWAYS パンフレット

オスロからコペンハーゲンへ、フェリーでの1泊だった。船室に備えられたパンフレットは、日本語版だ。クルーズルート・マップ、船内ガイド、ビュッフェ案内などがセットになっている。気になったのは、ビュッフェのフとエのところで改行されていた。ネイティブチェックの必要を感じた。



■ヘルシンキ マップ

日本語版のガイドマップだ。フィンランド語のマップに、日本語をプラスしたものだ。ホテルは青、観光名所は赤の番号を入れてわかりやすい。文字も大きくて見やすい。

中面はレストラン・みやげ物店など広告で、これもすべて日本語になっている。ヘルシンキはヨーロッパへの空の玄関口として日本からの旅行者も増えているのだろう。

パンフレットを整理しながら、スウェーデン、ノルウェー、デンマークでは、多言語版の中にお互いの国の言葉を入れていないことに気付いた。わずかなパンフレットを見てなので、なんともいえないが、この3か国は互いに言葉が通じるのだろうか。

北欧はまだアジア言語のものは少ない。けれどもこの旅行で中国人や韓国人の観光客に行く先々で出会った。これからはアジア言語のパンフレットも増えていくにちがいない。

これからもよろしくお願いします！

営業企画部 金山 麻美

■ 日々勉強！

はじめまして！ 2015年12月に入社しました金山麻美と申します。営業企画部としての工務のほかに、おもに英語に関するお仕事を担当しております。

わたしは、幼いころから英語に興味があり、そのきっかけとなったのが洋画でした。昔から父親の影響で洋画や海外ドラマを頻繁に観ていて、小学校高学年の頃に突然「英語が喋れるようになりたい！」と思い、両親に頼んでECCジュニアや公文式に通わせてもらっていました。中高大学時代と「映画好き」にさらに磨きがかかり、受験勉強やテスト勉強そっちのけでひたすら映画を観ていたのを覚えています。

翻訳という職業に興味を持ち始めたのは高校生のころで、授業で映画字幕翻訳家・通訳の戸田奈津子さんについて知り、なんてすてきな職業なんだと思いました。なんとなくではありますが、この頃からいつか翻訳に携わる仕事ができればいいなと考えるようになりました。

お客様の声に耳を傾けつつ、翻訳者の方々と細かな部分まで確認作業を行う中で、言語的なことはもちろん、翻訳という仕事についても日々多くのことを勉強させていただいております。これまで勉強してきたことを活かしながら、学生のころに思った「翻訳に携わる仕事」ができ、とても刺激的です。

まだまだ至らない部分があるかとは思いますが、ひとつひとつ確実に丁寧な仕事ができるよう心掛けたいと思います。

これからもよろしくお願いします！

■ Always learning!

Hello, my name is Asami Kanayama. I'm a new employee, having joined this company only a year ago. I'm mainly in charge of general affairs, arranging translators and proofreading.



The reason I started getting interested in English was because of my father who enjoys watching

foreign movies and TV series. One day when I was around 10 years old, I suddenly decided that I wanted to be able to speak English fluently someday. I started taking private English lessons and at the same time, I started to imitate the way actors/actresses speak in movies, even though I couldn't speak English at all at the time. I'm sure it must have looked creepy if someone were to see me speaking out loud to myself.

When I entered high school and I started learning about one of the most famous translators in Japan named Natusko Toda. That was when I became interested in translation. I thought that in the future, I want to get a job related to translation and now I actually do.

I'm happy to have this job and it's very exciting to work for this company. Not only to make use of my experience but also to learn a lot more about it. I'll continue doing my best. Thank you.

南紀白浜 アドベンチャーワールド

総務部 松本 佳代子

10月に1泊2日で和歌山に旅行に行ってきました。

アドベンチャーワールドでイルカのショーや色々な動物をたくさん見て、大興奮！

大満足な旅行となりました♪

パンダがたくさんいる！



噂には聞いていましたが、こんなにたくさんのパンダを見たのは初めて。

パンダを見るための行列もなく、ずっと前にいても誰も何も言いません。写真も撮り放題。遊ぶパンダ、食べるパンダ、寝てるパンダ……色々なポーズの写真が撮れました。

9月に生まれた赤ちゃんパンダは、白黒はまだハッキリしてなく薄いピンク色で、お母さんにベッタリ甘えていました。

イルカのショーは圧巻



イルカのショーでは、何頭ものイルカが息ピッタリにジャンプしたり回転したりと、迫力の演技に圧倒されました。

その他もサファリゾーンでライオンやゾウ、キリンなども間近に見られて、私たちの目もイルカに負けない位、キラキラしていたと思います。(笑)

レストランや休憩所などにもよく見ると、パンダがいっぱいで楽しかったです。

ごはんもいすもパンダ



KBSまだん 韓国研修旅行は「百済の古都、公州」を訪ねてみた

6月梅雨の合間、近つ飛鳥博物館「古墳とは何か — 葬送儀礼からみた古墳 —」に行ってきた。古墳時代を思い巡らしていると、ちょっと足を延ばして明日香村の石舞台へ行こうということになり、高松塚古墳も見て回った。そして恒例の韓国研修旅行は、8月に釜山から公州への旅で、2016年の韓国語教室は「古墳巡り?」の年となった。

公州は忠清南道のほぼ中央にある都市だ。普通公州に行くならソウルからのほうが距離的にも近く便利だ。公州でもソウルから来たのかとか、この後はソウルへ行くのかとか聞かれた。しかし私たちの旅の始まりは釜山からだった。

金海空港に到着後、電車を乗り継いで釜山駅まで。2度乗り継ぎがあるが、割と早く移動できる。釜山駅17:50発のKTXに乗り大田まで移動する。大田の到着は19:30頃。そこから地下鉄とタクシーを乗り継いで公州市まで行く。公州のホテルに到着したのは21:00頃だった。ちょっと遅い夕食はカルビ。美味しいお肉を食べれば疲れも吹っ飛ぶ?

翌朝、朝食前にホテルの近くを散策する。夜に到着したので、その時は周りの景色もよくわからなかったけど、朝の散策



公州市の運動場に置かれてあったワジュンの船

で、公州まで来たんだなあと改めて実感する。近くに公州市の運動場があり、そこにはワジュンの船が置かれてあった。朝食はホテルで。私はなぜか旅行すると朝ごはんが美味しいと特に感じる。

朝食後、最初に向かったところは、国立公州博物館。残念なことに武寧の特別展の準備中で、2階の常設展のみの見学となった。見学した後、宋山里古墳群へと移動する。移動中歩いた道が6月に高松塚古墳に行った時の雰囲気似ていた。

宋山里古墳群は百済(パッチェ)の第25代王の武寧王(462~523年)



宋山里古墳群

や王族のお墓がある古墳群だ。古墳は外からは見ることができず、中の中は入れず、中の中は宋山里古墳群模型展示館で見ることができる。薄

暗い館内には、古墳内部を本物そっくり再現した部屋があり、その他、金で作られた首飾りや王冠などが展示されている。

見学後は市内に移動してお昼にする。私が食べたのは、冷たい豆乳スープのコングクス。見た目よりボリュームがあって、もうお腹いっぱい。

お昼を済ませてから大田まで移動して、KTXで再び釜山まで。ホテルにチェックインした後は、チャガルチ市場に。チャガルチ市場の近くには、古い日本家屋が残っている場所もある。それから龍頭山公園にも足を延ばす。夕食はソウル カクトウギのソルロンタン。ここは初めからご飯が入っているタイプで、かなりボリュームがある。スープの美味しさが胃袋にしみわたる。夕食の後は、近くで買い物をしたり散策。私は日頃の



古い日本家屋が残っている街並み

運動不足のせいか、腰のあたりがだるい。ホテルに戻って、バスタブに湯を張りゆっくりとお風呂に入って疲れを癒す。

翌朝、ホテルの近くの食堂で朝食をとる。メニューを見ながら何にしようか…。隣りで食べているお兄さんにそれは何かと尋ねるとシレギだという。メニューにあるかと聞くと、メニューにはない…。店のおばちゃんに聞くと、常連の男性客用に作っているそうだ。値段も安く、ボリュームもあるから特別にそうしているらしい。運良く私もそれを食べることができた。



龍頭山公園

朝食を済ませ、チャガルチ市場へ行く。

夕暮れのチャガルチ市場と朝のチャガルチ市場は、また趣が違う。散策した後、古本屋街に行った。古本屋街は「宝水洞本屋通り」と言うらしく、行って初めて知ったところだった。

今年の韓国語教室の研修旅行はちょっと駆け足になってしまったが、無事に旅を終えることができた。帰ってくるとまた来年の旅行が楽しみになる。



宝水洞本屋通りの由来書き

【個人情報の取扱いについて】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

発行日 2017年1月1日

発行/編集 ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話 06-6716-5665
FAX 06-6711-2804
E-mail info@kbsjapan.com
URL http://www.kbsjapan.com/

年末年始休業日のお知らせ

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。

年末年始を下記の通り休業させていただきます。

新しい年も、なにとぞご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

12月29日(木) ~ 1月4日(水)

1月5日(木)午前中営業、1月6日(金)より平常通り営業いたします。



■今回、私が初めて『ナルゲ』の編集長を担当しました。一番悩んでいたのはやはり表紙の素材でした。表紙は「多言語」を求めて写真を撮りに行ってきました。いろいろ工夫を凝らして、皆さまのご協力のお陰で、ようやく「多言語」という時代のテーマを際立たせて斬新な雰囲気のある社内報が仕上がりました。感動・感謝の気

持ちでいっぱいです。

(呂)

■2016年は来年から中学生になる息子を、いっぱい釣りやキャンプに連れて行くと言っていたにもかかわらず、数回しか行けずに残念な1年でした。いや…学生の年始は4月からで……あと3ヶ月ある! なんとしてもキャンプにあと1度は行きたいと思います。(稲木)